

【3】九十九地区ってこんなまちです

(九十九地区の歴史)

九十九地区は、佐世保市の北西部に位置しています。東に佐世保市街地を望み、西に九十九島を眼下に、船越（3町内）・下船越（2町内）・庵浦・野崎・俵ヶ浦からなり、佐世保港と自然美を誇る九十九島の両方が眺望できます。

九十九地区の歴史は古く、1498年（明応7年）大智庵城2代目城主・松浦丹後守政にまつわる「石岳の巻狩り」物語にはじめて登場し、巻狩りが行われていた頂上より裾広がりの山野の呼び名が石岳であったと記されています。

約300年前、平戸松浦藩の支配制度が確立し、その末端支配地が「船越」でした。平戸松浦藩は藩財政の一助として漁民一族を船越に派遣し、漁業基地として定住させたと伝えられています。また、対立する大村藩の情報のための歴史的遺物が戦前までは残っていたそうです。

俵ヶ浦は、「明暦2年田方帳抜書」によれば、かつては船越免に代表され、俵ヶ浦免はありませんでした。

俵ヶ浦半島の最南端の高後崎には、1714年（正徳4年）に平戸松浦藩高後崎番所が置かれ、対岸の大村藩寄船番所とともに、異国船の侵入や密貿易等を取り締まっていました。当時の番所や番頭の役宅の敷地跡は現在も残っています。

庵浦・野崎は、明治以前、庵浦が東彼杵郡日宇村、野崎が北松浦郡山口村として二分されていました。このような各町の生い立ちがあるこの地区は、平成20年5月1日現在1,322世帯・3,782名の人が生活しています。

市民の憩いの場所である石岳動植物園、石岳展望台からの九十九島の絶景、展海峰や花の森公園の四季折々の佇まい・白浜海水浴場・キャンプ場等は、九十九地区の貴重な財産であり、市民はもちろん観光客が大勢訪れています。

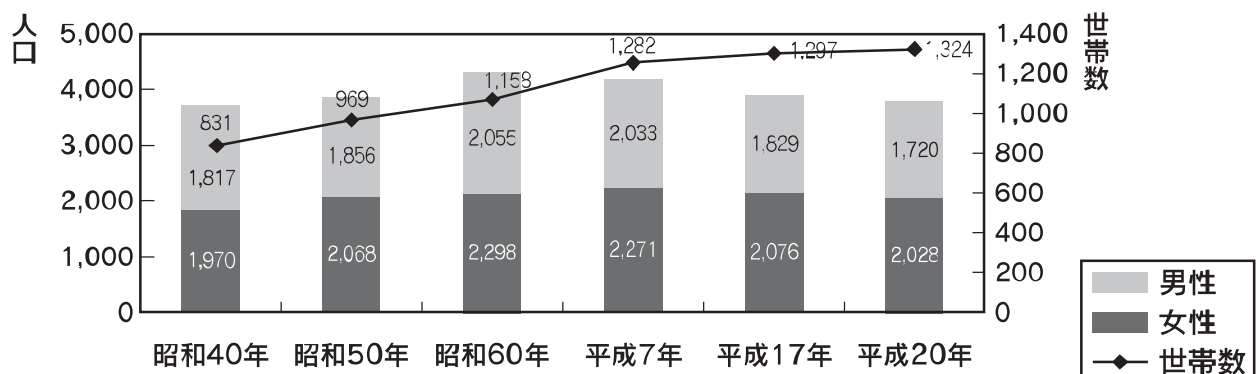
この美しい自然をみんなで守り、ここに住む私たちが次の世代に引き継ぐことが大切です。

〔佐世保市における九十九地区の位置〕



石岳展望台より九十九島を望む

(九十九地区の人口推移) ※いずれも10月1日の統計資料



(九十九地区“わがまち自慢”)

九十九地区には“自慢”がいっぱい！その一部を紹介します。

◎白浜海水浴場・キャンプ場

西海国立公園の雄大な自然に抱かれた佐世保を代表する海水浴場です。白砂の海辺と青く澄んだ海が広がり、水平線に目を向けると、大小の島々が浮かぶ南九十九島が眺望できます。遠浅で波は穏やか、磯遊びも楽しめます。

昭和39年に開設され、平成20年で45年目を迎えました。この間、水難事故による死亡事故はゼロを続けています。

キャンプ場は、常設テントのほか、オートキャンプ場や日帰りバーベキュー棟を備えています。

九十九島に沈む美しい夕日や、五島灘の漁り火はとてもきれいです。



白浜海水浴場

◎展海峰

下船越町にある展海峰^{てんかいほう}は標高165mの小高い丘で、昔は“むじな岳”と呼ばれていました。九十九島を含む西海国立公園は1955年、日本で18番目の国立公園として指定されました。リアス式海岸の波静かな海に浮かぶ、さまざまな形をした島々、遠くは五島列島や平戸島、そして夕日が遠く水平線に沈む光景は、まさに日本の風景を代表する美しさです。

この九十九島の絶景が眺められる、最高の展望地の一つが「展海峰」です。心身ともになごむ最高の場所で、春には菜の花、秋にはコスモスが彩る、この地区の自慢の場所です。



展海峰より九十九島を望む

◎野崎町花の森公園

昭和55年につくられた花の森公園は、俵ヶ浦半島の中央に位置し、市民の憩いの場として身近な公園です。四季を通して、色々な草花が市民の目を楽しませてくれます。

山の花が春の訪れを知らせると、木蓮が白い大きな花を咲かせます。すると梅の木も淡いピンクの花を咲かせ、甘い香りが所一面にただよいます。しかし、何といても主役は桜です。満開咲き乱れる様は見るものを圧倒し、この世の楽園といっても良いでしょう。

また、公園のシンボルとして、樹齢300年以上と思われる椎木があります。



花の森公園

◎佐世保市亜熱帯動植物園

昭和36年に開園した佐世保市亜熱帯動植物園は、西海国立公園九十九島を展望できる船越町の高台にあり、“石岳動植物園”とも呼ばれています。

本土最西端の動植物園で、園内には、温室・バラ園・自然動物区が点在し、キリン・ゾウ・ライオン・レッサーパンダなど67種335点の動物と1,200種21,000点ほどの亜熱帯植物を見ることができます。

日本に来て30年以上経つ、ゾウのハナ子は園のアイドルです。またマントヒヒの群れでの飼育は、国内でも数少ないそうです。



佐世保市亜熱帯動植物園